

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	<b>提案機関名</b>	東部家畜保健衛生所
89		
※記入不要		
<b>要望問題</b> 生体内卵子回収法（OPU法）－体外受精法（IVF法）の検討		
<b>要望問題の内容</b> 【背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 本県においても、高能力牛の効果的な増産を図るために過剰排卵処置による受精卵採取（体内胚生産）および移植技術を活用しているところであり、雌雄産み分け技術等の新たな取組もなされている。 しかしながら、老齢や個体差等により過剰排卵処理への反応性が低く移植可能胚が少ない供卵牛に対しては、体内胚生産は効果的でない。 そこで、経膈採卵〔生体内卵子回収法（OPU法）〕した後に、体外受精法（IVF法）を利用することで、短期間に多数の移植可能胚の採取が可能であるかを検討する。		
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="radio"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内	
<b>研究対応区分</b>	<input checked="" type="radio"/> ①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他	
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） <input checked="" type="radio"/> ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	畜産研究所
部 署	畜産工学部
<b>対応区分</b>	<input type="radio"/> ①実施 <input checked="" type="radio"/> ②実施中 <input type="radio"/> ③継続検討 <input type="radio"/> ④実施済 <input type="radio"/> ⑤調査指導対応 <input type="radio"/> ⑥現地対応 <input type="radio"/> ⑦実施不可
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合)	生体内卵胞卵子を用いた胚生産技術の開発（H10～16年度）
<b>対応の内容等</b>	生体内卵胞卵子の利用技術については平成10年度より試験に取り組んでおり、超音波診断装置を用いた経膈的な卵子回収における回収卵子数の向上や個体別体外受精卵の発生成績について検討しています。 なお、要望のありました老齢牛や過剰排卵処理への反応性の低い供卵牛に対する本技術の応用については、採卵成績を阻害する種々の条件を持つ牛に対する本技術の応用について検討して行きたいと考えています。
<b>解決予定年限</b>	<input type="radio"/> ①1年以内 <input type="radio"/> ②2～3年以内 <input type="radio"/> ③4～5年以内 <input type="radio"/> ④5～10年以内
<b>備考</b>	